

①実習期間

令和3年8月4日～令和3年9月4日

②学生氏名

山形さん

③実習内容

- ・こどもにほんご教室への参加
- ・こどもにほんご教室の報告記事作成
- ・こどもにほんご教室で使用する教材づくり
- ・外国語講座アンケート集計
- ・ホームビジットの報告記事作成
- ・外国人学生かがわホームビジットオンライン交流会の補助
- ・(公財)香川県国際交流協会の事業説明
- ・多文化共生についての講義
- ・中国出身、あるいは滞在していたスタッフさんの中国紹介
- ・全国で実施されている外国にルーツを持つ子ども向け教室の調査

④学び・気づき

私は、アイパルで一度イベントを開催させていただいた経験があり、少しではありますがアイパルについて知っていました。しかし実習をして、職員の方とお話や仕事をしていくうちに外国人の方への支援の詳しい内容や全く知らなかった事業についても触れることができ、自分が今まで知っていたアイパルの情報がほんの一部だけであったことに気づきました。特に私は、「こどもにほんご教室」に携わりました。私が小学生の時は外国にルーツを持つ小学生が学校にいなかったため、こどもたちが学校生活をどのように送っているか全く想像が付きませんでした。しかし、自分が言葉もうまく話せない国に行き、そこで勉強することがとてもしんどいことであるということは想像できます。そして、こどもは余計にストレスをたくさん感じると思いました。そのため、外国にルーツを持つ子供に対して日本語の勉強の支援は必須であり、その支援や同じような子供たちが集まる場がどれだけ重要であるかということはこの経験を通して学ぶことができました。

また、多文化共生についてのお話を聞いた直後、実際に外国人が日本人に受け入れられていない現場を目の当たりにしました。私の中では、多文化共生の時代は進化しており、外国人も受け入れられていると思い込んでいましたが、その時にまだまだであるということに気づきました。そのため受け入れが進んでいる地域も進んでいない地域も今後はアイパルのような施設が、人々の心の拠り所となり、外国人と日本人をつなぐ架け橋になっていくと思いました。

以上から多文化共生について考えるきっかけを作ることができ、現状をより詳しく知り、今後あるべき姿を考え、学ぶことができました。

⑤今後に向けた抱負

もっと多文化共生について意欲的に学び、それを将来活かしていけるように頑張りたいです。また、最近おろそかにしていた語学ですが、今まで以上に勉強し上達できるようになりたいと思います。

また、仕事をするうえで相手(今回は子供でした)のことを考える場面がいくつかありました。この経験から言葉があまり通じなくても相手の気持ちを汲み取れるような努力をしていき、今後役にたたいです。